

# 「第3回 製剤機械技術学会 仲井賞若手研究者奨励賞」 受賞者の選考結果について

## The 3rd NAKAI Young Investigator's Encouragement Award of Japan Society of Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員会 委員長 瀬田 康生

Yasuo SETA

Chair of Selection Committee of the NAKAI Award

本学会では創立10周年を機に、2000年より「仲井賞」を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕彰しております。2017年1月に本会名誉会長仲井由宣先生がご逝去されました。製剤機械技術学会は仲井先生のお持ちであった本会創設にあたっての理念、目標を継承、発展することを目的とし、新たに「仲井賞若手研究者奨励賞」を設け、基礎研究、応用研究、または技術開発を通じて優れた業績を上げた40歳未満の会員を表彰することにいたしました。

仲井賞選考委員会において、応募内容について、慎重かつ厳正に審査した結果、下記を「第3回 製剤機械技術学会 仲井賞若手研究者奨励賞」受賞者として会長に報告し、理事会にて受賞者が決定いたしました。

### 記

・受賞者：林 健太郎（シオノギファーマ株式会社）

・受賞業績題目：流動層造粒における粒子成長の解析とそのモデリング

・受賞理由：林 健太郎氏は、新規に開発したポピュレーションバランスモデル（PBM）により流動層造粒法における粒子成長を解析し、粒子の凝集・解砕現象と、含水率をはじめとするプロセスパラメータとの関係を解明した。特に造粒の成長開始点及び終了点が含水率の“可塑限界値”に相関する点を見出したことおよび造粒後の乾燥工程での粒子径の変化（解砕）までを一連の工程としてとらえた点は、新規の知見である。本研究によりPATツールから得られる情報を数値解析しモデル化する実用的方法論が確立された。また、さらに詳細な工程理解が求められている現状では、流動層造粒工程で生じる現象の科学的理解を深めた本研究の製剤生産工程における貢献度は大きいと考える。

林 健太郎氏は企業の研究者であり、自らの研究を社外に公表することには制限がある。そのような条件下でも質の高い研究を実施・発表した点からも、林 健太郎氏は、仲井賞若手研究者奨励賞に値すると判断した。今後ますますの活躍が期待される若手研究者である。

以上